

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ.ディ.エス
事業所名	グループホーム 第2バナナ園
訪問調査日	平成21年8月17日
評価確定日	平成21年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ.ディ.エス
事業所名	グループホーム 第2バナナ園
所在地	212-0055 川崎市幸区南加瀬3-7-23 (電話) 044-587-1773

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年8月17日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】(平成21年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 8 人
職員数	10 人 常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 4.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建て	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7 月 17 日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	名		要介護4	2 名	
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなとメディケア・クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は株式会社アイ・ディ・エスで、バナナ園と云う名前を冠した6つのグループホームを持っている。オーナーはグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホーム展開が為されている。このホームは川崎市の東部でJR横須賀線新川崎駅から徒歩20分、東横線元住吉駅からバスで10分の住宅地にある。ホームは旧産婦人科医院を改良した1ユニットで定員は8名、3Fはケア付き高齢者住宅で訪問介護扱いで展開している。利用者、職員共に明るく、近隣との協調体制に気を配り、各種イベントは家族を巻き込んで行っている。食べることは最大の楽しみであり、命の Spoon と云われる食事職員がメニューを決め利用者と一緒に買い物に行き、栄養のバランスをドクターに見てもらい、カロリー計算をして手作りで提供している。資生堂のビューティアップセミナーがホームで開かれ、女性としての本来の姿を思い出し嬉しそうだった。また、バナナ園理事長の蕎麦打ちも恒例となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年度は地域密着の活動に取り組んだ。地域密着の一環として中学生の受入を目指した。3Fの高齢者住宅入居者のお孫さんの関係でお隣の中学校との連携が出来、今年には中学生7名を1人ないしは2人で1週間続けて受け入れた。核家族でお年寄りに馴れていない子どもたちは、始めは戸惑っていたが、職員の働き方を見ながら、少しずつ関わりをもてるようになり、一緒に遊ぶなど自然な形でコミュニケーションが取れるようになった。お年寄りも喜ぶし、子どもたちも良い経験が出来たので継続して行きたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 今回は自己評価票をバラして全職員に配布し担当ぶぶんを記入してもらい、これをベースとしてミーティングを開催して意見を出してもらい、管理者が纏める幹部職員がパソコン入力して作成した。評価で出された課題やプロセスでの気付きについては全員でミーティングし改善している。管理者は職員の自主性を尊重し評価を活かすよう取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については現在、年4~5回程度に留まっている。メンバーは自治会長、地域代表の方、川崎市幸区の介護保険課の職員の方、市相談員、ご家族、入居者、職員と云う構成で、オブザーバーとして地域包括支援センターからもご参加を頂いている。幸区の介護保険課の職員の方は必ずご出席頂き有難く思っている。ご家族については全員に声をかけ、都合のつく方が出席し、参加したご家族の利用者本人も出席している。当日はお茶会の併設など工夫している。テーマではご家族の質問、行政の情報、民生委員の問い合わせなどあるが、マンネリ化しない工夫を考えている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は比較的良く来てくれている。ターミナルを含めて協力関係にあり、看取りも経験した。利用者は決して家族のことを忘れないので、介護職員のみならずご家族の協力が重要であることを常々話している。入居に際しては、ご家族の安心をアセスメントで確認している。認知症デイを実施しており、3人の利用者のうち2人が入居となった。(1名は残念ながら入居を決めながら急逝された) より認知症デイの活用を図って行く。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の会合には前管理者地代から継続して出席し情報を得ている。ボランティアの関係では障害者を受け入れ、将来力を発揮してもらえるよう努めている。利用者がその子を教える面での良さもある。音楽療法を卒論で取り組んだ音大生が大学を卒業し音楽療法の専門家になっても継続して月2回来てくれている。正式な音楽療法としてアセスメント(グループの様子、席、楽器名、職員の感想etc.)を記録に残して実施し、ミュージックセラピーの効果で自己の意思表示、喜怒哀楽の豊かな表現が助長されている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人達と、交流を深めながら、事業所の理念を理解して頂き、その人らしく、自由で、明るく、楽しく、暮らしが出来る様、支援していく。		今後も継続し、実施していく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や、申し送り時にカンファレンスを取り入れ、理念が正しく実践されているかを日々、話し合っている。		今後も継続し、実施していく。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が施設の中のみで過ごすことがないように積極的に買い物、散歩、祭りや町内の行事に参加し地域の皆様に声かけをして頂いている。夏休み中「職業実習」として地元中学生を順次受け入れて、交流し、地域活動の幅を拡大していく。	○	地元中学生の「職業実習」は今後も継続し、実施していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で出された課題やプロセスでの気付きについては全員でミーティングし改善している。管理者は職員の自主性を尊重し評価を活かすよう取組んでいる。		今後も継続し、実施していく。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民、民生委員、行政の方々に参加を呼びかけ個々の立場からの意見は謙虚に受け止め、入居者へのサービス向上に活かしていく。当日はお茶会の併設など工夫している。テーマではご家族の質問、行政の情報、民生委員の問いかけなどあるが、マンネリ化しない工夫を考えている。		運営推進会議の内容を更に充実したものにして行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは運営推進会議への出席で有意義な質疑、応答があるが、常にTEL、FAX、メール等で連携しアドバイスを頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も継続し、実施していく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアマネを兼務する管理者が利用者の状況を毎月、文書でお知らせし、面会時や、電話等でも話す機会を設けている。		今後も継続し、実施していく。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し説明をしている。 市や国保連の相談窓口の電話番号等、解り易く提示、ご家族や訪問の方にはご意見箱を設置し意見を頂ける様にしている。	○	家族からの意見、不満は職員全員で話し合い、第三者の意見も取り入れ家族が納得し安心出来る様、改善し運営に反映させる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者との信頼関係は構築されている為、出来るだけ職員の異動は避けているが、避けることが出来ない場合は、馴染んだ職員が居る間に新しい職員を馴染ませる努力をし、ダメージ軽減の為、心のケア向上に努めている。		今後も継続し実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の講習会や外部主催の講習会に積極的に参加し、事業所内での勉強会を受け日々業務に生かしている。		今後も継続し実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会に於いて互いに施設を訪問し合い情報交換し、各々活かし反映させている。又、入居者が当事業所が受け入れる不可の場合は、同業他社を紹介している。	○	当事業所が受け入れ不可能な場合だけでなく、同業他社が入居予定者に適していると思われる時は他事業所を紹介する様ネットワークを作っていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に詳細なアセスメントをとり以前の生活ペースを大切に、数回のデイサービスで馴染める様工夫し、家族と連携を取りながら、安心した生活が送れるよう取り組んでいく。		今後も継続し実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居者とコミュニケーションをとり、喜怒哀楽を共感し、本人が「必要とされている」と感じられるよう、自信をもっていただき、入居者、職員が共に過ごし、支えあう関係を築いている。		家庭らしさを演出して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な問題はフェースシート、アセスメントにもとずき、本人の視点から支援出きる様、関係者全員でカンファレンスを持ち、本人本位に職員全員で把握し情報を共有している。		今後も継続し実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者全員が入居者の状態像を把握し意見を反映し、入居者の視点に立った個別具体的な介護計画となっている。 ICF方式をベースとし家族の同意を得ている。		今後も継続し、実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた際は随時、家族、かかりつけ医の意見を取り入れカンファレンスを開催し、介護計画の見直しをしている。モニタリングを行い少しの変化にも注意を払い、現状に即した計画を作成している。		今後も継続し、実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族等の状況を考慮しながら、見直し、工夫を活かし、グループ「力」の活用を図っている。		今後も柔軟な取り組みをして行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導で往診、訪問看護をして頂き指示を受けている。管理指導医とは緊急時のマニュアルも取り決めがある。		今後も継続し、実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応はマニュアル化されており家族の了解を得ている。終末期のあり方も家族と話し合い方針を共有している。	○	かかりつけ医と連携を取りながら、本人の希望を重視し、家族との話し合いにより住み慣れた、馴染みの部屋で、一緒に暮らしてきたスタッフにかこまれて、安らかに、安心して終末期を迎えられるように支援する。(看取りを経験した)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等も充分注意した言葉使いをしている。何気ない言葉掛けの場合でもその人を尊重する心がけをしている。		今後も継続し実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き入れ、一人ひとりのペースに合わせた一日の流れになっている。生活リハビリや、身体を動かすレクレーションも取り入れ、ある程度の刺激も支援している。		今後も継続し実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、嗜好も満足し、食事することが喜びになっている。配膳、調理、片付け等入居者が進んでスタッフと一緒に喜んで参加している。		今後も継続し実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間はある程度決めているが、楽しく、リラックスして入浴出来る様支援している。仲の良い人や、気心の合う人と一緒に入浴出来る様に支援している。		今後も継続して実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、外食、散歩などの外出、レクリエーション、おやつ作り、音楽療法等、多種導入して気分転換し楽しみを支援している。入居者同士のコミュニケーションの場を増やす工夫をしている。	○	映画や、芝居にも行ける様に支援する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日を決めずに、当日の天気の状態と本人の体調、状態を観察の上、散歩や外出を支援している。		今後も継続して実施していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居住地周辺は環境的にも危険な立地条件にあり入居者単独の外出は不可能で家族の了解も得ている。外出は職員又は、家族同伴で実施している。	○	ボランティア等の導入も視野に入れる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと避難訓練、消火訓練、救助訓練を行っている。毎年消防点検も行っている。	○	防火管理者による消防計画を川崎市へ提出して訓練を重ねていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望を取り入れ個々の栄養バランス等はDrと相談しながら決めている。水分摂取量は時系列表で適正量を確認している。		今後も継続して実施していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	育成しやすい植木鉢等を入居者の好みで世話ができる様になっており個々のスナップ写真、作品を配置している。		今後も継続して実施していく。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具、好みのカーテン、好きな置物などで居心地の良い空間作りを工夫している。		今後も継続して実施していく。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

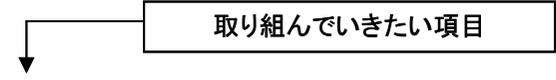
○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 第2バナナ園
所在地 (県・市町村名)	〒212-0055 川崎市幸区南加瀬3-7-23山口医院ビル
記入者名 (管理者)	管理者 大浦勝子
記入日	平成 21年 8 月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人達と、交流を深めながら、事業所の理念を理解して頂き、その人らしく、自由で、明るく、楽しく、暮らしが出来る様、支援していく。		今後も継続し、実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や、申し送り時にカンファレンスを取り入れ、理念が正しく実践されているかを日々、話し合っている。		今後も継続し、実施していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	社内定期発行紙「バナナニュース」、ホームページ、介護報告等を通じ取り組んでいる。		言語及び、文書化されたパンフレット等を通して理念を伝えていく。
2. 地域との支え合い				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶はもちろん、回覧や、玄関に設置して頂く生花、鉢、七夕の笹等、提供して頂き、気軽にお付き合いができています。		今後も継続し、実施していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が施設の中のみで過ごすことがないように積極的に買い物、散歩、祭りや町内の行事に参加し地域の皆様に声かけをして頂いている。	○	夏休み中「職業実習」として地元中学生を順次受け入れて、交流し、地域活動の幅を拡大していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしの相談や家族の悩み等、役立てるよう話し合っている。	○	地域の高齢者を施設の推進会、イベントに声かけし招待して交流していく。
---	--	-------------------------------------	---	------------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で出された課題について全員でミーティングし改善している。 管理者は職員の自主性を尊重し評価を活かすよう取り組んでいる。		今後も継続し、実施していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民、民生委員、行政の方々に参加を呼びかけ個々の立場からの意見は謙虚に受け止め、入居者へのサービス向上に活かしていく。		運営推進会議の内容を更に充実したものにして行く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは推進会への出席で有意義な質疑、応答があるが、常にTEL、FAX、メール等で連携しアドバイスを頂きサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後も継続し、実施していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市職員、弁護士との話し合いの場を持ち全員が理解できるよう学ぶ機会を作っている。	○	成年後見制度の対象者に対して今年度より弁護士が2人対応となりさらに深く福祉の権利擁護について学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は平常心で常に自己知覚し入居者に寄り添うケアに努め、異常に気付いた場合は全員で直ぐに対応する様話し合っている。		今後も継続し、実施していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設の見学、希望がある場合は体験入所を数回行い、その際に十分な説明を行っている。病気などで解約の際には、家族に丁寧に説明し、退所後も相談を受けている。		今後も不安なく入退所が出来る様継続し、実施していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し説明をしている。運営推進委員会にも参加して頂き説明を行っている。	○	1月より、新規に2回目の川崎市より派遣された介護相談委員を入れている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアマネを兼務する管理者が利用者の状況を毎月、文書でお知らせし、面会時や、電話等でも話す機会を設けている。		今後も継続して行く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し説明をしている。市や国保連の相談窓口の電話番号等、解り易く提示、ご家族や訪問の方にはご意見箱を設置し意見を頂ける様にしている。	○	家族からの意見、不満は職員全員で話し合い、第三者の意見も取り入れ家族が納得し安心出来る様、改善し運営に反映させる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や、ケア会議を通じ意見交換を行い、本部での管理者会議時に提案し、反映させている。		今後も継続し実施して行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	支援の充実を図るため、シフト調整を行い状況の変化に即、対応出来る様にしている。		今後も臨機応変に取り組みを継続する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者との信頼関係は構築されている為、出来るだけ職員の異動は避けているが、避けることが出来ない場合は、馴染んだ職員が居る間に新しい職員を馴染ませる努力をし、ダメージ軽減の為、心のケア向上に努める。		今後も継続し実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の講習会や外部主催の講習会に積極的に参加し、事業所内での勉強会を受け日々業務に生かしている。		今後も継続し実施して行く。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会に於いて互いに施設を訪問し合い情報交換し、各々活かし反映させている。又、入居者が当事業所が受け入れる不可の場合は、同業他社を紹介している。	○	当事業所が受け入れ不可能な場合だけでなく、同業他社が入居予定者に適していると思われる時は他事業所を紹介する様ネットワークを作っていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の業務の中で朝礼時に、意見の交換の場を作っている。常時、管理者、職員の話聞く体制を取っている。		今後も工夫し、継続していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	シフトの調整、健康管理を行い、意見や工夫を活かす場とする。各種講習会の案内を掲示して参加を呼びかける。		今後も取り組み継続していく。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の意見を伺った上でご本人との話す機会を多くし不安なく過ごして頂ける様に努力している。		今後も信頼関係を築く努力をして行く。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、度々接する時間を設け何時でも不安なことや求めていること等、話しあっている。		他のサービス機関とも連携し要望に添える様に努力する。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設内を見学して頂き、本人や家族の意見を聴き、不安に感じていること等を把握し、必要としている支援が行えるよう、努める。		ディーサービス等で事前に馴染める様にする。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に詳細なアセスメントをとり以前の生活ペースを大切に、数回のデイサービスで馴染める様工夫し、家族と連携を取りながら、安心した生活が送れるよう取り組んでいく。		今後も継続して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に入居者とコミュニケーションをとり、喜怒哀楽を共感し、本人が「必要とされている」と感じられるよう、自信をもつていただき、入居者、職員が共に過ごし、支えあう関係を築いている。		家庭らしさを演出して行く。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の入居前と入居後の生活を情報交換し家族と一緒に本人を支援出きる様に努める。		今後も入居者や家族との関係の構築に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、本人の居室で一緒にお茶を飲んで頂き、近況報告や相談を交え支援を行っている。		面会者(家族)が居ない入居者に対して考慮中。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、近隣、馴染みの面会を歓迎し外出の機会を自由に行っている。又、以前使用していた家具、寝具、食器等身の回り品を居室で使用している。		今後も継続して行く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループ生活の中で各々の個性を大切にレクリエーションや、おやつ作りを通して一緒に活動できるよう支援している。		今後も継続して行く。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了し退所するとき、今後、何時も相談を受ける旨を伝える。その後も訪問したり電話したり交流している。		今後も関係を継続する。

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な問題はフェースシート、アセスメントにもとずき、本人の視点から支援出きる様、関係者全員でカンファレンスをもち、本人本位に職員全員で把握し情報を共有する。		今後も継続して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで以前の生活歴を入居後の生活環境作りに活かし、その人らしい安心した生活が送れるよう努める。		きめ細かな生活歴を把握し、今後に活かしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタル、食事、水分摂取量、排泄、顔色や表情を常に観察、傾聴し、記録、業務日誌等で総合的に把握に努めている。スタッフ全員と連携し検討しながら、情報を共有する。		今後も継続し、実施して行く。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者全員が入居者の状態像を把握し意見を反映し、入居者の視点に立った個別具体的な介護計画となっている。ICF方式をベースとし家族の同意を得ている。		今後も継続し、実施して行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた際は随時、家族、かかりつけ医の意見を取り入れカンファレンスを開催し、介護計画の見直しをしている。モニタリングを行い少しの変化にも注意を払い、現状に即した計画を作成している。		今後も継続し、実施して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員の個別記録に気づきや工夫を記入し、全員の話し合いの中でケアプランに活かすようにしている。		今後も取り組んでいく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族等の状況を考慮しながら、見直し、工夫を活かし、グループ「力」の活用を図っている。	今後も柔軟な取り組みをして行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	専門の音楽療法士による音楽療法や民生委員及び、相談委員の方も協力を頂いている。	今後も他の機関との協力を広げていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社内に複数の事業所が在るためケアマネ会議等を通じて話し合い取り組んでいる。	今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの交流はない。	○ 今後は地域包括支援センターとも交流を行いケアマネジメントに活かして行く。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	居宅療養管理指導で往診、訪問看護をして頂き指示を受けている。管理指導医とは緊急時のマニュアルも取り決めがある。	今後も継続していく。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	居宅療養管理指導医が診療内科の専門医のため、適切な指示や助言を受けている。	今後も継続していく。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間気軽に相談可能な看護師による健康管理をして頂き緊急時の取り決めもマニュアル化されている。		今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と協働しながら医療機関と三者一体となり退院に向けた支援の体制を作っている。		今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応はマニュアル化されており家族の了解を得ている。終末期のあり方も家族と話し合い方針を共有している。	○	かかりつけ医と連携を取りながら、本人の希望を重視し、家族との話し合いにより住み慣れた、馴染みの部屋で、一緒に暮らしてきたスタッフにかこまれて、安らかに、安心して終末期を迎えられるように支援する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常の健康管理の記録を行い、異変変化の早期発見に努め異変時は医師の指示を受け度合により家族と話し合い、方向性を決めている。		今後も継続していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時のダメージは極力最小限にする為、家族の協力のもと支援している。		今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等も充分注意した言葉使いをしている。何気ない言葉掛けの場合でもその人を尊重する心がけをしている。		今後も継続し実施して行く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各々が家族で生活している空間を作り、思いや希望を自由に表現しやすい、ゆとりのある暮らしが出来る様支援している。個々が家族と生活しているような話しかけをし、その人に理解しやすい言葉で、自分の思いや、希望を表わせるよう支援している。		今後も継続し実施して行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き入れ、一人ひとりのペースに合わせた一日の流れになっている。生活リハビリや、身体を動かすレクリエーションも取り入れ、ある程度の刺激も支援している。		今後も継続し実施して行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人の好みを尊重し、好きなものを選択していただいている。 理美容も本人、家族の好みに合わせた支援をしている。		今後も継続し実施して行く。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、嗜好も満足し、食事することが喜びになっている。 配膳、調理、片付け等入居者が進んでスタッフと一緒に喜んで参加している。		今後も継続し実施して行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が気軽に食堂に出入りできるように開放している。 近所への買い物等、楽しめる様、支援している。		今後も継続し実施して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。 オムツの使用はほとんどなくなっている。		今後も継続して実施していく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間はある程度決めているが、楽しく、リラックスして入浴出来る様支援している。仲の良い人や、気心の合う人と一緒の入浴出来る様に支援している。		今後も継続して実施していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れは計画しているが本人の体調、意志を尊重して其の都度、臨機応変に対応している。		今後も継続して実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、外食、散歩などの外出、レクリエーション、おやつ作り、音楽療法等、多種導入して気分転換し楽しみを支援している。 入居者同士のコミュニケーションの場を増やす工夫をしている。	○	映画や、芝居もいける様に支援する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して少額の金銭を持って頂いている。時には、職員と買い物に行き、自分で支払が出来る様に支援している。		今後も継続して実施していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日を決めずに、当日の天気の状態と本人の体調、状態を観察の上、散歩や外出を支援している。		今後も継続して実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と話し合い出来るだけ家族と一緒に外出できる様支援している。	○	今後は、外出だけでなく、外泊も検討している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て行っている。		今後も継続して実施していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人々が何時来られても、外出したり、お話ししたり、居心地良く過ごせるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	厚生労働省の身体拘束ゼロの手引き等、諸条例を基にケアに取り組んでいる。		今後も継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居住地周辺は環境的にも危険な立地条件にあり入居者単独の外出は不可能で家族の了解も得ている。外出は職員又は、家族同伴で実施している。	○	ボランティア等の導入も視野に入れる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者を確認できる位置で作業し生活記録を通じ申し送り等で昼、夜、休日も把握出来ている。		今後も継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り除く際は代用品を置く等の配慮をしている。		今後も継続していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやり、ハット」を正確に記録、振り返り学び、検討しながら取り組んでいる。		今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連携、連絡体制により医師の指示のもとで応急手当を行っている。		今後も取り組んで行く。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと避難訓練、消火訓練、救助訓練を行っている。毎年消防点検も行っている。	○	防火管理者による消防計画を川崎市へ提出して訓練を重ねていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護報告、処置、往診記録等により家族に報告し相談、説明をおこなっている。		今後も継続していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル記録、異変や緊急時の対応は、職員、主治医と24時間連携しルールを決め実践している。		今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートや、服薬チェック表、各記録を通じて支援に努めている。		今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事摂取、食材、日常生活動作、レクリエーションに体を動かす行為を取り入れたり、本人の意欲向上の工夫をおこなっている。		今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自立度に応じた声かけ、誘導、介助を行っている。		今後も継続していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望を取り入れ個々の栄養バランス等はDrと相談しながら決めている。水分摂取量は時系列表で適正量を確認している。		今後も継続していく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等はマニュアルを作業の必要箇所に掲示し、手洗い、うがいは習慣化されている。		今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、食器等は使用后、必ず薬品消毒を15～30分行っている。食物、生鮮品はその日々購入し、鮮度、温度管理を徹底している。		今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣から提供して頂く季節の鉢を活用して楽しい雰囲気を作っている。		今後も継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	育成しやすい植木鉢等を入居者の好みで世話が出来る様になっており個々のスナップ写真、作品を配置している。		今後も継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分には各々の好む椅子があり、リラックスしている。気の合った入居者は、お互いに個室を訪問し合っている。		今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具、好みのカーテン、好きな置物などで居心地の良い空間作りを工夫している。		今後も継続していく。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度計、湿度計を設置して適正空調を管理し窓の開閉による換気に心がけている。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者に合わせたトイレ、廊下、個室の手すり設置、廊下の段差の解消、ベットのサイドレール等、自立した行動が出来る様工夫している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各部屋は名札の表示、カーテンの配色、共有部分トイレのぬいぐるみによる目印等、本人が分かる様、工夫している。</p>		<p>今後も継続していく。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>個室は南向きで日当たりも良く窓は大きくロケーションも最高である。ベランダの鉢をお世話して楽しんでいる。</p>		<p>今後も継続していく。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、当社の理念に基づき楽しく、明るく、自由に、尊厳を重視し、個性を大切に家族的氛围を作っている。
- 2、日常生活の中に個々に役割を持って頂き自立への支援を心がけている。
- 3、民生委員、介護相談委員、地域住民との交流により施設への理解が深くなっている。